

子どもと育ち

幼児になると幼稚園、保育園、認定保育園へと何らかの集団生活の中へ入ることが多くなります。今、どこでも幼児教育を行う施設として共有すべき事項があります。

育みたい資質・能力

生涯にわたる生きる力の基礎を培うため、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の目標を踏まえ、次に掲げる資質・能力を一体的に育つように努めるとする

育みたい資質・能力とは、**生きる力の基礎**になる、知識や思考力、学びに向かう姿勢などの大事な力です。

3つの側面がある、「資質・能力の3つの柱」とは

★一つ目の柱「知識及び技能の基礎」

遊びや生活の中で、何かに気づいたり、理解したり、できるようになったり することです。知識を増やすことだけが目標ではありません。

★二つ目の柱「思考力、判断力、表現力等の基礎」

調べたり、試したり、考えたり、伝え合ったり、遊びの中で気付いたことを活かしながら、考え、工夫することを大切に。

★三つ目の柱「学びに向かう力、人間性等」

思いやりや自信、相手の気持ちの受容、好奇心や探求心などのことです。



なぜ今、3つの「資質・能力」を育てるのか

進化し続ける AI(人工知能)などによって、社会はめまぐるしく変わり続け、今の子どもたちが社会に出ていく頃には、「知識がある、言われたことならできる」というような人間では社会に適応できなくなると考えられています。そのため日本を含む世界の教育界では、子どもたちに個別の知識や技能だけではなく、どんな状況や場面でも使える能力を育てていこうという方向

向に大きく舵を切っているそうです。どんなシチュエーションでも発揮できる柔軟な能力。それを 3 つの柱(側面)でとらえたものが「育みたい資質・能力」です。これまで保育の中でも行われてきたことですが、資質・能力を育むために、何ができるか、できないかではなく、子どもたちの中にどのような心情や意欲が育っているかを見極めながら、遊びや活動が深まっていくように支援していきます。

